

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ（店舗管理）	・オリンピック開催年の夏を経て、閉塞感が若干薄らぐことに期待したい。
		家電量販店（店長）	・復興支援・住宅エコポイントの省エネ家電ギフト券への交換や、エアコンの省エネ機種への買替えの需要がある。
		旅行代理店（従業員）	・秋の行楽シーズンでもあり、現在の受注量からすると期待はしている。しかし、上積みの動きが鈍いため、社会情勢の影響を最初に受ける業種としては、多くは期待できない。
		旅行代理店（従業員）	・消費税のことがやや気になるが、メリハリ消費といわれるように、認められた商品にはしっかりとお金を使う様子がうかがえる。
		タクシー運転手	・前年の秋は自粛ムードもあり、行楽の人は少なかった。今年は自粛ムードが解消され人出があると思う。そのため期待できるのではないかと思う。
		通信会社（役員）	・大手通信事業者との競合により、サービス利用者数の合計は増える方向に進んでいると考えており、今後の利用数の着実な拡大を期待している。
		住宅販売会社（経営者）	・成約見込み数の増加がみられる。
		住宅販売会社（従業員）	・高額物件の引き合いが出てきており、消費税増税見直しから需要の高まりが期待できる。
	住宅販売会社（従業員）	・客の動きは間違いなく増えており、今後の契約数は増加すると思われる。展示場来場だけでなく、今まで無かった事務所への来社も1か月で3件もあり、住宅を検討している客の動きは、これからさらに活発化すると思われる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・消費税のアップやよほど空気より浮かれるような話題が欲しい。悪い意味で変わらない。
		商店街（代表者）	・オリンピック以外に明るい話題も無さそうで、景気を刺激するほどの材料は無さそうだ。暑い日が続きそうで、お出かけの頻度も減りそうだ。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・新しい客も入っているため、売れる商品が変わっていくので、昔の客で売れたものが読めない。今後どうなっていくか見当がつかない状況である。
		百貨店（売場主任）	・天候に左右されることが多くなると思われるが、消費税アップの話題による買物へのモチベーションの低下も、ここしばらくは顧客の買物意識からなくなっている。クリアランスから秋物商品への提案を段階的に実施し、顧客への飽きさせない来店促進がカギとなるが、ここしばらくは安定した展開になると思われる。
		百貨店（営業担当）	・8月は猛暑が予測されているため、家の中でいかに涼しく、エコな暮らしを楽しむかというのは、引き続きあると思われる。通常の8月は、夏休みやお盆などで、外に出かける、旅行に行くといったお出かけ関連商材の動きがあったが、今年はそうしたものより家の中で楽しむということで、支的的には少し抑え気味なのかなと感じる。そういった意味では、まだ厳しい時代が続く。
		百貨店（売場担当）	・節電が叫ばれており、涼しい素材の衣料品やひんやりグッズを、各社とも売れる見込みで相当数の在庫を用意して臨んだが、予想以上に消化率が悪く在庫が残っており、苦戦している状況である。8月以降も、どれだけ伸びるか予測しづらい状況である。高級雑貨や時計、宝飾などは前年同月の76%ということで、生活必需品以外の苦戦が継続している。
		スーパー（店長）	・特に、周囲の競合店の動きを見て判断した。
		スーパー（店長）	・ここへきて猛暑日が続いている影響で、来店時間のズレや1人当たりの買上点数が、限られた商品に集中してしまい、家庭での食材料を買わない傾向が続いている。現在購入しているのは、即食品や簡便商品、飲料などに集中しているためだと思われる。
		スーパー（総務担当）	・政治の混迷が続き、景気が良くなる展望が持てないため、消費者は出費を控えようとする。引き続き客単価が下がると予測する。
スーパー（総務担当）		・オリンピックによる消費拡大は瞬間的にあるものの、円高や消費税増税、穀物被害など暗い話題が多く、回復に向う兆しは無いように思う。	
スーパー（統括）		・特に変わる材料がない。現状は暑いので、この状況とこれ以降の前年との気温差によって、若干変わってくると思う。	

コンビニ（経営者）	・売れているものとしては、店で作っている揚げものなど、要はコンビニにしかないような商材である。できたての物であるとか、安い商品の目的買いに関しては、依然として高い伸長をしているため売上が期待できる。しかし、もっと稼げるもの、たとえば弁当類などに関しては前年を下回っているような状態が続いている。総体的には、売上が上がっていくことは見込めない状況である。
コンビニ（経営者）	・前年の業界再編成後の売上レベルは維持できる。前年同月比の数字に限れば回復するが、景気が良くなるという実感は、まだまだないだろうと思っている。
衣料品専門店（経営者）	・暑い日が続く中、残暑が厳しそうで、夏物の実用衣料が中心に売れていき、秋物はそんなに早く売れていくとは期待しにくい。
家電量販店（店長）	・暑さを過ぎれば、けん引してくれる商品は見つからない。太陽光など検討する来店客は多いが、金額がまだ高いため成約となりにくい。
家電量販店（管理本部）	・チラシ導入時の新規顧客の伸びが低い。
乗用車販売店（経営者）	・小型車志向や低燃費化など需要を引っ張ってきた車種は、やや一巡したかに見える。新型スポーツカーや新型高級輸入車などが話題をつくるが、大きな台数を見込めない。
住関連専門店（店長）	・このままいけば上がってほしいが、消費税問題がいつからどう動くかで一気に変わってくると考えられる。オリンピック商戦も、悪くするか良く出るのは微妙である。
その他専門店〔酒〕（経営者）	・これ以上は悪くならないという希望的観測であり、実際のところは悪くなるのではないかという不安でいっぱいである。とにかくここ10何年と、こういったデフレ状態というか、景気の悪さが出ているのが、いつまで続くのか。いい加減に景気回復の方向へ向かって欲しいと思っている。
その他専門店〔医薬品〕（総務担当）	・必要な物を必要なだけ購入するという、節約モードが浸透している。新商品の購入にも慎重な姿勢が見られる。
高級レストラン（スタッフ）	・お盆の暦がとてもよく、予約も例年の2割増しで入っている。オリンピックでのプラス要因はない。
一般レストラン（店長）	・良くなる要素が見出せない。
スナック（経営者）	・スナック業界も時代の流れなのか、客の混沌とした状態を聞くと先々も期待できない感じがする。
観光型旅館（経営者）	・8月は高校総体などで客数は稼げているが、9月以降の秋シーズンの予約状況は、非常に厳しい状況である。
観光型旅館（スタッフ）	・予約保有も7月から9月は前年同月比95%、10月は同80%とまだ回復傾向は見受けられない。
都市型ホテル（スタッフ）	・夏季商材での取り込みはあるが、大きく変動する要素ではない。
タクシー運転手	・タクシーは、夜は週末だけが何とか動くが、それ以外はあまり動かない。
通信会社（職員）	・オリンピック景気の後には、その反動からよほどのプラス材料がでてこない限り現状維持となるという話が、地元では大勢である。
通信会社（社員）	・堅調さを維持する見込みである。
通信会社（営業担当）	・携帯電話の新商品（夏モデル）の発売前で、客が買い控えしている状況がある。現行機種の下値下げを待ち、販売量の増加を見込みたい。
通信会社（営業担当）	・特定の機種を除き、全体的な在庫不足の中で、総数で更なる大幅な伸びは見込めないと思われる。
通信会社（営業担当）	・商品の見極めはシビアであるが、販売そのものは、ある程度順調に推移するのではないかと。
競輪場（職員）	・年に1回の本場記念開催が翌月に控えているが、地元有力選手の欠場が予想され、売上減に拍車がかかると予想される。
美容室（経営者）	・ここ半年ほど売上、来客数とも前年をクリアするようになった。この傾向はあと半年は続く雰囲気である。
住宅販売会社（従業員）	・客は購入のため動いているが、予算は厳しくなっている。1物件あたりの単価が下がり、かつ契約までに要する時間がかかるようになってきている。消費税率アップ前の駆け込み契約も含め、今後の動向が重要と考えている。
住宅販売会社（従業員）	・平成25年になると住宅取得資金の贈与税が減額されるので、今年同様、客の動きが増える。
やや悪くなる	一般小売店〔鮮魚〕（従業員） ・観光地は、依然、東京スカイツリーに食われているようであり、この猛暑で人の出入りが減少するように思われる。

	一般小売店〔事務用品〕（役員）	・エネルギー不安、増税問題、海外、特にイタリアやスペイン、ギリシャの信用不安など、我々を取り巻く環境は非常にマイナスな方向に向かっている。そういった不安な時期に、客がなかなか投資をしない気がするため、2～3か月後の景気というのは、悪くなりつつあるのではないかと思っている。	
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・消費税問題をはじめ、一般家庭に影響のある問題が山積みで、周りの景気は悪くはなるにしろ、良くはならない。	
	百貨店（営業担当）	・夏の暑さが続く中で夏物の低迷がこのまま続けば、前年割れの状態が、翌月、翌々月も続くと思われる。ただ、アイテムとしての旅行用品についてはまだ客の動きが見られるため、それに関しては少し伸びしろがあると思われる。全体的には来客数も減少、買上客数も前年割れが続くと思われる。	
	コンビニ（店長）	・消費税増税などの話があり、全体的に客の景気は良くない。事実、通常時の売上が徐々に下がっているのが現状である。イベント、例えば土用の丑のうなぎ弁当など、今後、盆や正月などに単価の高い弁当を買ってもらうことはできると思うが、そういったイベント商品を除く通常商品だけで見ると、年々落ち込んでいるように感じられる。総売上は前年を少し上回ってはいるが、うなぎやたばこの単価が上がったから結果的には売上が上がっているように見える。利益率などを考えると手元に入ってくる利益は年々減っている。	
	乗用車販売店（経営者）	・土木、建築関係でユーザーの倒産が複数件出ており、自社にも影響が少なからず出ている。景気状況はこれからも厳しくなると思う。	
	乗用車販売店（役員）	・補助金終了後に、どのような市場になるのか大変不透明な状況だが、モデルチェンジの新型車の推進、販売を進めて行かざるを得ない。	
	自動車備品販売店（従業員）	・新車需要、補助金も無くなり、新規購入客の減少が危惧される。車の使用年数の増加からメンテナンスにける客の増加に期待していたが、直近の客の反応からは必要最低限に抑える傾向が強く、見通しは悪い。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・消費税増税法案の衆院通過により、タイヤなど高額品はいずれは駆け込み購入が見られると思うが、ここしばらくは心理的に購買意欲が落ちるであろう。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・消費税増税もやむを得ないということがあり、個店としては、競合に対して、なかなか価格設定を合わせづらいということが、ずっと続くということが挙げられる。	
	一般レストラン（スタッフ）	・学生は大手の安定した企業への就職を望んでおり、中小企業では新卒者の募集がなかなか集まらない。一方でフリーターを希望する人も多く、車など高額なものは欲しくないため、今が楽ならば良い人も増えている。若年層の消費意欲は低く、団塊世代が定年を迎え年金生活者も増えている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は弱く大型物件もない。厳しい見通しである。	
	その他レジャー施設（職員）	・競合施設の出店が商圏内で決まり、オープン前販促で買い控えが出始めた。	
	悪くなる	テーマパーク（職員）	・2～3か月先の予約状況を見ると、前年同月比で2けた以上の落ち込みとなっている。中でも、団体客の動きは鈍く、また、募集ツアーなども催行がなかなかされない状況にある。全体として北陸エリアについては、他のエリアと比べて現状は財政が乏しいため、2～3か月先も厳しい推移にある。
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	金融業（融資担当）	・マイナスの材料が出尽くした感がある。消費税問題についても一定の目途が付き、方針が示されたことで、それを踏まえて前倒しの需要なども、今後発生することが考えられ、景気を下げる圧力が今は無くなったという判断をしている。
		不動産業（経営者）	・まわりの業者の話や話を聞くと、今は少しずつ物件の問い合わせがくるようになったため、2か月先には動き出すのではないかとと思われる。
		税理士（所長）	・今のところは、政府関係の予算が順調に発注に回ってくる時期に入ってくると思う。そうした面でも、いろいろなものの動きも順調になるのではないかと。円高で元方の大手企業の予定が変わったりといった外的な要因がない限りは、本来の形の経済活動に、徐々に回復していく傾向が出るため、全体的な数値的な面ではよくなってきているのではないかと期待している。
	変わらない	食料品製造業（役員）	・大きく変化する環境、要素がまだ見えていない。

		繊維工業（経営者）	・為替の状況が悪化するなか、欧米市場および中国市場も減速しており、先行き不安が強まっている。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・今の景気から言って、住宅市場が3か月や6か月で変わるとは思えず、新しい話題も今のところない。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合を見ると現状と変わらない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・好調であった新興国向けまでが減速してきており、回復の兆し、きっかけが見えてこない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・受注はほぼ現状レベルで数か月先まで決まりつつあるが、世界情勢や政局、為替など、いろいろの意味で依然として不安要素が多い。
		輸送業（配車担当）	・現状の経済状況が、急激に好転するとは考えられない。
		通信業（営業担当）	・事業所用のビジネス電話の更改については、製造業の多い当地の減衰が著しい状況にある。
		金融業（融資担当）	・欧州の景気回復に対する懸念はあるものの、円高の是正がなされると予想されるなど、引き続き景気の持ち直しのテンポは、現状の緩やかな状況が続くものと思われる。
		司法書士	・倒産、会社の解散、事業廃止が多く、新規事業を始めるのは、高齢者対象の社会福祉法人など限定されている。
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・円高の定着により、先行きについては非常に慎重である。加えて来春についても今年の計画の60～70%と言われている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・国内の設備投資意欲が出てこない、八方ふさがりの状況である。景気刺激対策を国に望む。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・現在の受注量が異常なくらい多いため、その反動は必ず秋口から出てくるような判断をしている。若干の落ち込みや反動であればよいのだが、大幅な、急激な落ち込みを懸念しているところである。
	悪くなる	建設業（経営者）	・先日、得意先が自己破産し当社も損害をこうむったが、他にも手形の支払期日の延期を依頼され応じた得意先もある。資金繰りに苦しむ建設業の状況が、さらに進むと思う。
		建設業（総務担当）	・依然工事発注量は低調と思われる。受注確保のために、当分は低価格での受注競争が続くと予測され、工事受注面は引き続き厳しい見通しである。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・食品や衣料などの流通系チラシの出稿量が、ここ半年前年同月を下回って推移している。
雇用 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・エコカー補助金終了を目前にした駆け込み需要と、消費税増税前の駆け込み需要が前倒しで起きている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・各企業の求人に対する意欲は、やや高くなっていると思われる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・7月の派遣求人数が上期平均より約20%増加傾向になった。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・景気回復による人員増加計画での派遣利用であれば、長期的な雇用も発生すると思われる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・特に大きな変化がない。
		職業安定所（職員）	・求人開拓推進員の事業所訪問の結果では、今後の需給見通しが良いとする企業は少ない。
		職業安定所（職員）	・先行き明るい、または受注好調などを要因とする増員求人はそれほど見られず、欠員補充のための更新求人が多くみられ、今後も同様の内容で推移すると思われる。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月比29か月連続して増加しているが、正社員求人数は全体の4割であり、この状況が続く。
	やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-	